

談天

DANTEN



高橋 宏明

一般社団法人東北経済連合会 会長

節目を迎えるにあたって

今から約50年前の1964年、東海道新幹線が開業しました。

東京―新大阪間を4時間で結ぶ大量高速輸送システムが実現し、日本の大動脈として、その後の経済発展に大きく貢献することになりました。

それから18年後の1982年には東北新幹線の盛岡―大宮間が開通し、さらに2010年には新青森が開業、全線が開通しました。50年前には約12時間かかっていた青森と東京の間を、今では当時の4分の1の約3時間で移動することが可能になったのです。

今年3月には、いよいよ北海道新幹線が開業します。

わが国で、新幹線の誕生から約50年の時を経て開業を迎える北海道新幹線は、東北・北海道地域のさらなる発展に向けた大きな可能性を秘めています。

そして今年、東北経済連合会も創立50周年を迎えます。また、東日本大震災発生から5年という節目の年でもあります。引き続き東北の復興、さらなる発展に向けてさまざまな事業を展開してまいりたいと考えています。

中でも、震災を克服した新しい東北づくりにおける復興のシンボルとして、当会が鋭意取り組んでいるプロジェクトがあります。それは東北放射光施設の建設とILC(国際リニアコライダー)の誘致です。

ILCについては、近く日米の国会議員による「科学技術日米議員連盟」が立ち上げられるなど、日本への誘致に向けた機運がますます高まっています。

ILCの実現により、世界最高水準の科学技術や、1万人規模の研究者とその家族が東北の地に集まり、日本初の国際的な学術研究拠点が形成されます。そこでの研究成果と先端技術は東北から全国へ、さらに世界へと発信されることになるでしょう。新たな東北の創生、日本の再興につながり、将来の子供たちへの大きな財産にもなるものです。

また、東経連は、観光インバウンドの拡大や地域産品の海外展開にも注力し、取り組んでいます。昨年7月、東経連では岩手県、宮城県、石巻市と共同で、食をテーマとするミラノ国際博覧会に出展しました。そこで紹介した東北の食材や食文化、自然は、いずれも来場者から高い評価をいただき、「東北の魅力は 世界に通用する」ということを改めて確信しました。

このように東北のさまざまな魅力を世界に発信し、東北の復興、さらなる発展に向けて、ともに力を合わせてまいりましょう。

(東北電力株式会社 相談役・たかはし ひろあき)